

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
教育部会長 若 林 克 彦
専務理事兼事務局長 清原 淳平

教育部会のお知らせ (第321回)

日時 平成28年1月25日(月) 午後1時半～3時半
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室
千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

議題 1、最近の教育問題について想う
挨拶 若林克彦部会長(国土館大学前学長)
2、早稲田大学の大学教育改革への取り組み
解説 大野高裕早稲田大学理事

報告 去る12月18日開催の第320回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務め行われました。まず、清原淳平専務理事より、当日の講師・山川宏早稲田大学理工学術院教授の経歴紹介がありました。次に、若林部会長より開会挨拶がありました。大学入試改革が進み、大学のあり方も多様化している。そうした中で、今回は、学部創設百年を契機に、大幅に改組して大きな成果を上げた早稲田大学理工学の取り組みについてお話をうかがい、大学改革のあり方について検討していきたい。

これを受けて、山川先生より、「第2世紀の早稲田大学理工学部の教育・研究」と題して以下の趣旨の解説がありました。早稲田大の理工学部は1908年に設立され、67年に現在の西早稲田に移転した。創立百年を迎える2008年の前年に、先進・創造・基幹の3理工学部に変更し、大学院も理工学術院となった。また、日本で初めて先端生命医科学・先進健康科学専攻群を、東京女子医科大・農工大学と共同で設立した。それらの改革のきっかけは、産業界からの多様なニーズにこたえること、そして意思決定のプロセスのスピードアップであった。特徴として、理工系学生の必須スキルである英語教育に力を入れている。英語で書かれた専門書や論文を読み、英語でプレゼンテーションができ、論文が書けることを目標に掲げ、1年次から全て英語で講義、ディベートなども行う。

次に、早稲田の理工学部は創立当初から実際にモノに触れる実験教育を重視しているが、この伝統は引き継がれ、7分野にわたる高度で充実した実験教育を行っている。特に、ロボット研究については、日本でもトップクラスにある。そして、2009年からは博士課程の授業料に相当する奨学金を受給すれば、実質授業料無料になる制度もスタートした。これらの取り組みによって、理工学術院の特徴が顕在化し、意思決定が迅速化する等の改善が行われたが、その分、会議が増え、事務が複雑化して特に若手は超多忙になってしまった。また、広報不足ゆえ、まだ組織の対外的知名度も不足しているというさらなる改善点もある。

その後の意見交換では、○日本メーカーの自動車エアバッグでリコールが起きるなど、技術力の低下が叫ばれている。技術力を向上させるカリキュラム作りが重要だ。○高校で高い学力を持った生徒は、飛び級で大学院に入れるようにするなど、柔軟な学制があってもいい。等々の意見が出ました。

★レクチュアにつき、資料代千円に御協力御願い申し上げます。

次回、1月25日（月）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 _____

貴方様の F A X _____

電話 _____

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620